

官民協働による子どもの総合支援、



佐々木 建雄さん

退職教員が中学生の学習をバックアップ

学習支援モデル事業

中学生の基礎学力の定着などのために学習支援を実施し、学力向上を目指す取り組みを、市では今年度から新たにスタートさせます。

石狩初となるこの「学習支援モデル事業」は、石狩市退職校長会の協力の下、地域にいる退職教員に呼び掛けチームを編成するというもので、まずは5人の方の賛同を得ることができました。

現在は、このチームが中学校においてどのような形で学習支援を行うのがベストか、その仕組みづくりを石狩市退職校長会の佐々木建雄を中心に行っているところです。

佐々木さんの専門は数学。実際に花川南中学校の1年生の数学の授業に足を運んでいると、時折、問題の意味が理解できずに悩む生徒の姿を見かけます。そんなときにはそっと声をかけ、「ここはこう考えればいいんだよ」と教える場面もあるのだとか。「これから時代を背負って立つ子どもたちを健全に育成し、個々の持つ力を最大限に發揮してもらえたといつも願っています。のために今、私たちにできることをいろいろ挑戦してみようと思っています。それでお世話になった地域に貢献できればうれしいですね」



「協育工キス・パートチーム」の創設

昨年、市は教育委員会と共に教育大

綱を策定し「すべての子どもが等しく学べる環境の充実」を施策方針の一つに掲げました。

今年度は、教育と福祉の専門スタッフが協力し、子どもの学習面と生活面を重視して支援する「協育工キスパートチーム」を創設しています。

子どもと親、それぞれの気持ちに寄り添いながら、共に子どもの将来を考えることを大切に、個別訪問を積極的に行います。



石田 靖夫さん 戎屋 健一さん 根本 壽夫さん

地域の人材が学校で大活躍

学校支援地域本部事業

市では平成20年度から学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えるため「学校支援地域本部事業」をスタートさせました。現在10校の小中学校へ地域の方に入ってもらい、花壇作りやスキー学習、九九の検定やミシンを使った家庭科の授業などを支援してもらっています。

「あい風寺子屋教室」もその一つ。花川南・紅南小学校では放課後など、地域の方が低学年に百人一首やバルーンアートといった文化・体験活動を行い、昨年から学習支援として「漢字の読み書き」も活動の柱に加えられました。

学校が求める人材と地域の人材をマッチングするのは、元教員の3人の「地域コーディネーター」の皆さん。今年5年目の石田 靖夫さんは期待を込めて言います。「勉強は大事。でも、詩吟を習ったり葉っぱのしおりを作りながら地域の方と過ごす時間も子どもたちには必要です。こうした取り組みは継続しなければ意味がないので、市民の皆さんにもっと参加してもらえたなら」



●3人の地域コーディネーターから市民の皆さんへメッセージ

石田 靖夫さん「子どもと接していると楽しいし、刺激になります」

戎屋 健一さん「皆さんが得意なことをぜひ子どもたちへ伝授してください」

根本 壽夫さん「石狩っ子は素朴で前向き。熱意のある方を待っています!」

子どもの総合支援がスタート



子ども政策課
青木 宏美

厚生労働省の調査によると、国内の子どもの貧困率は16・3%と、子どもの6人に1人が標準世帯収入の半分以下で暮らしていることになります。子どもの貧困と、児童虐待やDVなどの問題は関連性が高いともいわれています。経済面、愛情面の格差によって、子どもの学びの機会が失われると、将来の選択肢が限られてしまう可能性さえあります。

子どもたちが安心して学び、過ごせる場所を行政と地域が共に考え、用意していくことが必要なのです。

始まっています。



子どもや若者の自立を多面的に支援

相談室セジュール・まるしぇ

子ども・若者支援を専門に行う「セジュール・まるしぇ」が石狩にできたのは今から3年前。現在、理事長で臨床心理士である新田 大志さんをはじめ3人の専門スタッフが、その成長に寄り添い、社会へ踏み出すサポートを行っています。

ここでは不登校や引きこもりなど、さまざまな相談に応じるほか、家庭や自室以外に彼らが「安心して過ごせる場」を提供し、主体性やコミュニケーション能力を身につけ、社会生活を送る技能が育めるよう、少人数で制作や体験活動、学習支援などを行っています。

新田さんいわく「不登校や引きこもりの状態になると、人と会うことだけでなく、いろんな学習や体験の機会が失われていきます。そうなると、“人と会うことが怖い”“行動する自信が持てない”と同じ、学校や社会から足が遠のくことも少なくありません。ここではそんな子どもたちが一步一步成長し、前を向けるよう丁寧に時間をかけて支援をしていけたらと思っています」

場所 花川北3・3・1

問合せ ☎77-5763 ※平日10時～19時、電話受付 10時30分

～17時30分



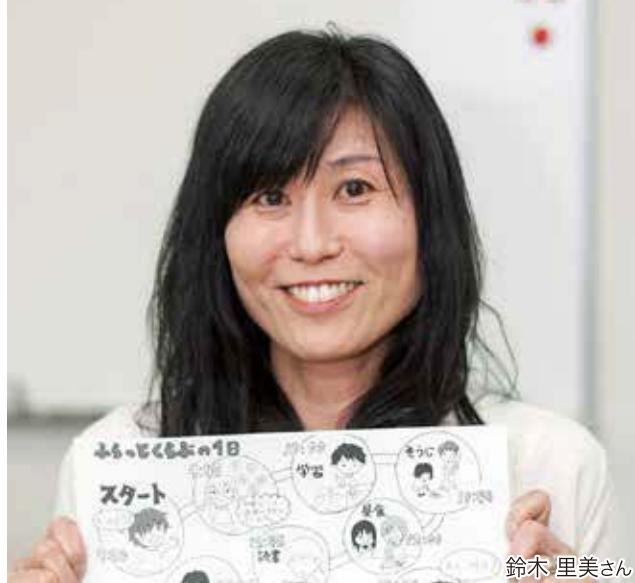
遊び交流センターの裏にあります!

↓6月30日(木)「子どもの未来を応援するシンポジウム」を開催します。
26ページも併せてご覧ください。

問合せ 子ども政策課 ☎72-3631

子どもを取り巻く環境が複雑化している今、子どもたち一人ひとりにきめ細やかな対応をするには、家庭と学校だけの努力では限界があります。家庭、学校、行政、民間、地域、市民の皆さん、全ての大人が一丸となり、地域全体で子どもたちの未来を応援する環境づくりを、今以上に進めていきましょう。

ほかにも、上記のような事業やNPO法人による取り組みもスタートし、さまざまな形で市民の皆さんのが子どもたちの支援に関わっています。



子どもたちが元気を取り戻す場所

ふらっとくらぶ(石狩市教育支援教室)

市では、学校に行かない、あるいは学校に行きたくても行けない子どもがいると、担任の先生から要請を受け、スクールソーシャルワーカーを派遣します。そこで子どもの悩みや不安に向き合い、「どうしても今は学校に行けない」という場合、彼らが安心して活動できる場所を提供しています。それが教育委員会で運営する「ふらっとくらぶ」であり、ここでの活動は学校の教育活動として認められています。

「ふらっとくらぶ」では、まず家を出てここに通うことから始まります。そこから自分で1週間の学習と生活の目標を立てて活動し、できたかどうかを日々自分で振り返ります。「ここに初めて来たとき、エネルギーが切れてしまったような顔をしている子もいます」と専属職員の鈴木 里美さん。



「エネルギーが不足すると意欲が低下したり、自信が持てなかったりしますが、ここでの活動を通して子どもたちは徐々に自信を持ち、意欲的に活動できるようになっていきます。元気に、明るさを取り戻す姿を見るのは何よりうれしいですね」

「協育エキスパートチーム」と連携イメージ

